

# 第1研究課題 第1B分科会

## 「教育課程に関する課題」

研究主題 「地域連携・小中連携を推進するための教頭の在り方」

ーコミュニティ・スクールを核としてー

坂出市立白峰中学校 出石伸郎

### 1 研究の概要

現在、児童生徒を取り巻く教育環境は大きく変化している。GIGAスクール構想の実現や新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組等、喫緊の課題については、学校だけではその対応が難しい状況にあり、家庭や地域社会の支援が不可欠である。

学習指導要領の総則には、「家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携」の重要性が示されており、学校は家庭や地域社会と連携・協働し、児童生徒を育成しなければならない。特に、現在のコロナ禍においては、学校・家庭・地域社会が工夫した連携を図る必要がある。

そこで、今回、坂出市小中教頭会では、コミュニティ・スクールを核として、地域の人的・物的資源を活用しつつ、他校の効果的な取組を自校に取り入れる等、教育課程の編成における教頭の役割とその在り方について考え、研究主題を「地域連携・小中連携を推進するための教頭の在り方」に設定し、研究実践を行った。

### 2 研究の内容

実践内容	教頭としての関わり
(1) 学校運営協議会を中心とした地域連携における教頭の役割 ア 「熟議」による教育課程の編成 イ 坂出市小・中学校教頭研修会での情報共有	○ 学校運営協議会の企画・運営と教育課程における行事の計画 ○ 学校運営協議会とビジョンを共有する行事や活動の企画・運営 ○ 他校との情報交換とコミュニティ・スクールとしての活動の充実
(2) 「社会に開かれた教育課程」を推進するための学校運営協議会を中心とした地域連携	○ 「ウィズコロナ」として新型コロナウイルス感染症対策を講じた取組の情報収集と行事の企画・運営

### 3 教頭としての今後の課題

- (1) 教頭が中心となり学校運営協議会で「熟議」を行ったことで、地域の願いや学校の思い、育成したい生徒像を共有することができ、教育課程の見直しに大いに役立った。
- (2) 他校の教頭と連携を図りながら、「ウィズコロナ」のもとでの運動会や授業参観等、具体的な取組を検討することができた。
- (3) コロナ禍で様々な学校行事が中止となっているため、学校運営協議会や地域、PTAと協力して、どのような活動ができるか、教頭として検討する必要がある。